

全異連全国大会 演劇あらすじ&玄海椿プロフィール

演劇「君よ がれきの華となれ」

あらすじ

華子は、漁師の夫、息子、娘の四人暮らし。毎年、家族全員で村祭りの、のど自慢大会に出場する程の音楽一家。ある日この村を大津波が襲う。次々と津波にのみ込まれ、華子一人が生存する。トタン板にしがみついて頑張る華子だが、遂に力尽きる。その時、家族の幻が現れ、華子に、人生の応援歌を歌う。「どんなに辛い時も、歌を歌って生き延びるんだ！」華子は家族との再会を夢見て、歌を歌いながら、棒切れでトタン板を漕ぎだした。しかし、再び余震が起きて、海の中に墜落。絶望の中、どこからか、父ちゃんの応援歌が聞こえてきた。「ここで死んでたまるか！漁師の嫁をなめちゃあいけない！最後の力を振り絞って泳ぐんだ！」・・・気が付くと浜辺に打ち上げられていた。生き残った華子は、家族の遺体を確認するが、自分が生かされた意味を問う。もう一度、このがれきの街に光を取り戻すことが、自分の使命ではないか？「私は生き残ったのではない。生かされたのだ！」華子は歌う人生の応援歌を！「もう一度このがれきの街に華を咲かせるんだ！」

脚本・演出 玄海椿

玄海椿プロフィール

大分県中津市生まれ。西南女学院短期大学保育科卒。

劇団テアトルハカタで野尻敏彦氏（故）に師事。2000ステージ出演。

TV ラジオ出演の他、声優、演出家、脚本家として幅広く活動。

2000年独立して、芝居屋企画を設立。

ひとり芝居（20作品）をもって、全国巡業を開始

2004年、九州演劇協会会長、玄海竜二氏より、玄海椿の名を襲名。

2009年韓国公演を期に福岡文化連盟会員となる。

2011年、東日本大震災の復興を願い、ノンフィクションドラマ「君よ がれきの華となれ」を自ら脚本して、平和、人権、命の大切さを訴える。

ひとり芝居全国公演で1000回突破。

福岡市人権啓発センター講師。劇団ひまわり福岡・熊本主任講師。第一薬科大学付属高校芸能コース演劇理論講師。椿演劇塾主宰。



●芝居の様子が地元福岡のNHK ニュースでも取り上げられ、YOUTUBE でご覧いただくことができます。

<http://www.youtube.com/watch?v=-D0SqC57iVQ>

※お問い合わせ先

芝居屋企画 平田裕次郎

〒813-0033 福岡市東区多々良 2-21-31

TEL・FAX 092-672-6380

Mobil 080-6451-9489 E-mail shibaiyakikaku@jcom.home.ne.jp

(2013/12/12)